

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL. 03-6380-8540

社会教育の

一層の活性化に向けて

文部科学省生涯学習政策局局长

清木 孝悦

都市化、過疎化、少子化などの変化の中で、地域における人のつながりが希薄化する一方で、地域の課題の解決に地域住民が主体的に取り組む動き、特に日本大企業は降は「地域のきづな」の重要性が強調されたりしています。しかし、子どもや高齢者の削減などで十分な時間取れない事情にあつたり、地域住民の新たなニーズに対応できていないなど、社会教育が十分に役割を果たしていないという問題があります。旧来の延長線でもなく社会教育の再生が求められるわけですが、そのための様々な

姿勢の中で、二つの例を挙げておきたいと思ひます。

一つは、地域の学校を中心として展開される取り組みです。学校を拠点として、地域住民や関係者の参画の下に、児童生徒の放課後の学習活動や地域での様々な社会教育の展開などを行うものです。学校を「清」としますが、正視の教育課題ではなく、むしろ社会教育に位置づけられるべきと考えられます。平成19年度からの地域連携学習教室や平成20年度からの学校を基地域本部の仕組みにより展開が図られ、児童生徒の

立小学校区の創設を経て、後者は公立小・中学校区の約3割で実施されています。第二期の教育振興基本計画では、平成29年度までに全市小・中実数区に及ぶことが目標とされており、さらにこれからの取り組みが開始される土曜日の教育活動充実の上でも一層の充実が求められます。

もう一つは、伝統的な社会教育の枠を超えた新たな取り組みです。平成25年度から「公民館等を中心とした社会教育の活性化支援プログラム」として、防災・減災など地域の様々な社会的課題解決のための取り組みを、公民館等が関係機関と連携して実施するのを支援する事業を行っています。従来の公民館等での「百草千花」の活動ではなく、公民館等と連携して、地域やNPOなどの民間団体と連携し、課題に取り組むことを支援することにより、社会教育の活性化を図ろうとするものです。

いずれの取り組みもコーディネーターを、地域とのつながりの役割を果たす人材の確保がカギとなります。地域住民のニーズを相互に把握し、関係機関や人を重ねながら具体化する事が大事というところだと思います。

そのような意味では、今後の社会教育再生において、地域の課題を的確に把握し、地域の課題関や人々とのネットワークを有する社会教育委員の方々への期待も大変大きいと言えるでしょう。



清木 孝悦
(せいき たかよし)

■プロフィール

1957年1月生まれ。兵庫県出身。
京都大学法学部卒業後旧文部省入省。
初中局企画官、学術国際局研究機関課長、文部科学省高等教育局大学課長、国立大学法人支援課長、生涯学習政策局生涯学習総括官、文化庁文化部長、独立行政法人日本学術振興会理事、文部科学省大臣官房文教施設企画部長などを経て、
平成25年7月より文部科学省生涯学習政策局長。

第55回全国社会教育研究大会(三重大会)を終えて

第55回全国社会教育研究大会(三重大会)の開催にあたり、全国の関係者が多大なご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。当初、参加者1,200名で計画いたしましたでしたが、1,600名を超える参加をいただきました。実行委員一同、感謝感激の大会となりました。

そこで、私たち実行委員会では、節目となる本大会を武年選宮のいつまでも若々しい「菅若の精神」に倣いつつ、これまでの大会趣旨を踏まえるとともに、次のような新しい取組みを試みました。

当日は、台風の接近が心配され、直前まで様々なケースを想定し対応に備えておりましたが、雨や風の被害もほとんどなく、最後まで予定通り実施できたことを大変喜んでおります。特に、「お伊勢さん観光ガイドの会」による野外で行う「社会教育実践視察研修」が、両方での開催となってしまわないか心配しておりましたが、翌朝の明るく空に感謝をいたしました。

○社会教育実践視察研修
開催地で実際に行われている実践を肌で触れていただくとともに、武年選宮を記号で開催された「せんぐう館」博物館を見学していただく。

○社会教育実践交流広場
県内全29市町やNPO、社会教育関係団体、社会教育施設等が、全国の社会教育関係者とFACE TO FACEでの情報交換を通して交流からつながり、さらにはネットワークの影響をめざす。

○学習成果の発表
地域の教育力により日常的に取り組む、培われてきた芸術文化等を「学習成果の発表」として、全国の社会教育関係者の前で披露させていただく。

○社会教育実践
以上のような趣旨で導いたしま

したが、情報交換を十分するには時間が足りなかったかもしれせん。また、学習成果の発表では、機器等の不具合によるトラブルもありました。しかし、笑顔でお互い情報交換する姿や、学習成果の発表での優しいまなこと温かい拍手、次のプログラムを考慮していただきながらのシンポジウムの進行など、参加者お一人おひとりが大会を盛りあげてくれました。

○社会教育実践
本大会では、「学校、家庭、地域を大切にした 人が輝き、開拓する社会教育の推進」を研究主題として設定いたしました。社会教育は間口が広く、奥行きが深いものですが、だれもが活動に参加できます。また、その活動は、人と人とのつながりや支え合いを大切に、協力あるコミュニティづくりへの可能性が開かれています。このような考えをベースに設定させていただきましたが、「社会教育実践交流広場」では、「参加者全員が輝きを放ち、協働しようとする姿」がそこにあったように思います。

研究主題をテーマに行われた「シン

ポジウム」や、テーマ別に決定協議された「分科会」においては、記録として報告書にまとめておりますので、今後の実践に役立てていただければ幸いです。

最後にになりましたが、参加者、関係者、協賛者すべてに改めてお礼申し上げますとともに、第56回徳島大会の盛会を祈念いたします。阿波徳島での新たな出会いを楽しみにしています。

第55回全国社会教育研究大会三重大会
実行委員会委員長 湯浅 祥司

湯浅 祥司



第56回全国社会教育研究大会徳島大会
第37回中国・四国地区社会教育研究大会 ご案内

～夢・絆 阿波からつむぐ 新たな社会教育！～

我が国においては、グローバル化や高度情報化が急速に進行する一方で、少子高齢化に伴う人口減少により、住民相互のつながりが希薄化し、地域コミュニティの崩壊が危惧されています。

このような我が国をとりまく様々な課題を解決するためには、新たな視点や発想に基づく価値を創造するとともに、現代社会で希薄になっている人間関係を再生し、家族や地域の絆で、共に支え合うことで心豊かに生きることのできる温かい社会を構築していく必要があります。

そのためには、住民一人ひとりが互いを認め合い、郷土に対する誇りや愛着を持ち、個人として自立するとともに、協働して豊かな社会を創造できる力を身につけることが求められており、社会教育の果たす役割がきわめて重要なものとなっています。

そこで本大会は、「共に支え 互いを認め合いながら豊かに生きる社会の創造」の研究主題のもと、全国の社会教育委員、社会教育関係者等が一堂に会し、各地域における社会教育活動の実践や研究成果について情報を交換し、交流を深め、これからの社会教育のあるべき姿、その実現の方策について研究協議を行うことを趣旨とします。

徳島県社会教育委員連絡協議会会長

第56回全国社会教育研究大会徳島大会実行委員会委員長 美馬 義明

◇大会の概要

- 1 期 日 平成26年10月22日(水)～24日(金)
2 会 場 <全体会・分科会>アスティとくしま(徳島市山城町東浜傍示1)
3 大会日程 《第1日目》

10月22日(水)会場：未定
社教連理事会 15:00～16:30

《第2日目》

10月23日(木)会場：アスティとくしま
社教連総会 10:00～11:30
受付 11:00～12:30
アトラクション 12:30～13:00
全体会開会行事 13:00～13:30
講演会 13:30～15:00
シンポジウム 15:00～16:30
全体会閉会行事 16:30～17:00

《第3日目》

10月24日(金)会場：アスティとくしま
【受付】 9:00～9:30
分科会 9:30～12:00



4 分科会

分科会名	テーマ	内 容
第1分科会	学校を支える	地域ぐるみで学校を支援する方策
第2分科会	家庭を支える	家庭教育力の向上を図る支援のあり方
第3分科会	地域社会を支える	地域の活性化を図る社会教育委員の役割
第4分科会	地域ぐるみで支え合う	防災・減災のまちづくり
第5分科会	集い支え合う	社会教育施設を核とした地域の絆づくり

- 5 大会参加費 5,000円/人

※現段階の予定であり、今後変更になることがあります。

平成25年度

地区別社会教育

研究大会

北海道地区

社会教育委員は、青少年活動充実のために何をどう進めるか！

「次代の担い手を育てる活動として」
「今すべきこと」

第53回北海道社会教育研究大会（根室大会）は9月19日、20日の両日、「朝日に一番近い街」、「北方領土返還要求運動原点の地」である根室市の総合文化会館を会場に317名の参加を得て開催されました。

講演講師をご依頼した大橋社教連会長が、台風の影響で来道できずかどうか心配されましたが、無事1日目を迎える

ことができた。社会を取り巻く困難な課題に対し、新しい発想で立ち向かう社会教育委員のあ



り方を強調された大橋会長の講演に引き続き、パネラー3名とコーディネーター（社教連坂本常務理事）の4名によるパネルディスカッションが展開されました。講演内容と一貫性のある発言がなされ、参加者の思考が深まりました。

1日目終了後、交流会が用意されましたが、翌日2日目の分科会で小グループを構成するメンバーが予め同席となるよう工夫がなされ、2日目の協議は一層活発なものとなりました。

北海道社会教育委員連絡協議会
会長 鈴木 文男

東北地区

「イ・ハト」発 未来を創る地域力の持続可能なコミュニティを目指して
10月9日、10日の両日、盛岡市において、平成25年度東北地区社会教育研究大会（第58回東北地区公民館大会）を、680名の参加を得て開催いたしました。

初日は、開会行事、アトラクションに続き、ジャーナリストで元朝日新聞東京本社編集局長の外岡秀俊氏に、「東北精神の源流―昌益、賢治、啄木―」と題して、三者の特徴と東

北の歴史・風土を結びつけないがらご講演をいただきます。これに続いて、聞き手として元めんこいテレビアナウンサーの坂口幸典氏の進行で、対談を行い、講演内容を更に深めました。



2日目は、社会教育関係2つ、公民館関係5つの計7分科会に分かれて、被災地が抱える諸問題も含めて、今日の課題について研究協議等を行い、参加者が日頃の実践をもとに活発に意見交換を行いました。最後に、閉会行事で大会宣言を決議し、2日間の日程を終了いたしました。

東北地区社会教育委員連絡協議会
会長 大橋 清司

関東甲信越静地区

学びを通じて、地域住民が「絆」を強め、自立した地域社会を創る社会教育の在り方

第41回関東甲信越静社会教育研究大会（栃木大会）は、11月14日、15日に日光市（日光地区）で、約

610名の参加者を得て、盛大に開催されました。

1日目
は、二宮総本家当主二宮康裕氏の記念講演から始まりました。二宮尊徳翁が行った人づくり、地域づくりは、現代の地域づくり等にもつながり、参加者にとって示唆のある内容となりました。



また、パネルディスカッションでは、今後の社会教育の在り方等について意見交換がなされ、2日目の分科会につながる議論が展開されました。

2日目は、5分科会に分かれ、5つの優れた実践事例をもとに、熱心な協議が行われ、参加者にとつて学びの多い分科会となりました。

参加された社会教育委員等の関係者が、本大会を通じて学んだことを、各地域で実践していただくことを心から願っております。

栃木県社会教育委員協議会
会長 石岡 佐平

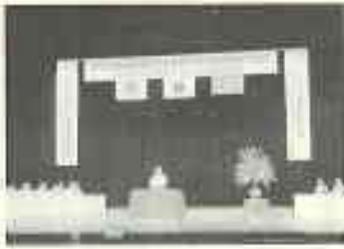
近畿地区

つながりを築く社会教育のあり方
今、社会教育委員に求められること

平成25年度近畿地区社会教育研究
大会（和歌山大会）は、9月5日に
和歌山県民文化会館を主会場に、1、
000人を超える参加者を得て盛大
に開催されました。

午前中は、開会行事に続き、南方
熊楠顕彰館の理事・宏一館長から「南
方熊楠の生涯」について記念講演を
いただきました。

午後は、5つの分科会（①地域づ
くり、②人権教育、③学校・家庭・
地域の協働、④社会教育委員、⑤家
庭教育支援）において、近畿地区各
府県からの実践発表に基づき、活発
な意見交換及び協議が行われまし
た。



活力あるコミュニティの形成と地
域における
住民の絆づ
くりに向け
てともに考
える機会と
なり、参加
者がそれぞ
れの地域で
実践してい

く契機となる大変有意義な大会にな
りました。

近畿地区社会教育委員連絡協議会

会長 榎本 浩巳

中国・四国地区

海のまちから 築こう地域の和！
つながり社会の輪！

「持続可能な社会の構築に向けたこ
れからの社会教育の在り方」

第36回中国・四国地区社会教育
研究大会（広島大会）は、11月21日、
22日の両日、広島県尾道市のしまな
み交流館を主会場に、約550名の
参加を得て開催されました。

1日目は、開会行事の後、古建築
の専門家でもある広島大学大学院
の三浦正幸教授に「尾道の伝統文化
とその継承」と題し、尾道市の神社

仏閣の建築
様式や住民
に息づく伝
統文化の継
承と社会教
育の関わり
について講
演をしてい
ただきまし
た。また、



午後からは、4つの分科会に分かれ
事例発表と協議が行われました。

2日目は、公民館長、学校支援コー
ディネーター、NPO団体代表者を
迎え、地域と一体となった具体的な
取組みをもとに研究主題をテーマと
したパネルディスカッションが行わ
れました。

2日間の大会において、多くの熱
心な参加者のもと、活発に討論が行
われ、実り多き大会となりました。
県内外から参加いただいた皆様に厚
くお礼を申し上げます。

広島県社会教育委員連絡協議会

会長 有本 章

九州地区

ふるさとを思い、地域の人々をつなぐ
社会教育をめざして

11月14日、15日の両日、長崎市に
おいて、九州各県から900名以上
の参加者を得て、第43回九州ブロッ
ク社会教育研究大会（長崎大会）を
開催いたしました。

1日目は、「子どもを育てる」「人
をつなぐ」「支えあう地域をつくる」
「社会教育委員の役割・活動を考え
る」をテーマに分科会を開催しまし
た。各会場では、実践発表をもと

に活発な意
見交換が行
われ、共通
の課題や今
後の取組み
の方向性等
について精
神すること
ができました。

2日目
は、アトラクシオンとして、長崎北
保育園の園児の皆さんに、長崎の伝
統芸能「龍踊り」を披露していただ
きました。

また、記念講演では、過疎化する
愛媛県双海町を、年間55万人もの人
が訪れる町へと変貌させた、人間牧
場主・年輪塾塾長の若松進一氏に「ま
ちづくりの新しい風」と題してご講
演いただきました。

分科会、アトラクション、記念講
演とともに、参加者の好評を得て、充
実した有意義な大会を、盛況のうち
に終了することができました。

九州ブロック社会教育委員連絡協議会

会長 江頭 明文



北から南から

笑顔の国

「社会教育委員活性化セミナー」

愛媛県社会教育委員連絡協議会

会長 岡山 勇一



では193部へと激増し、毎年度開催している愛媛県社会教育研究会

大会を中心とする諸活動を通じて、社会教育委員としての意識向上が図られている。

平成25年度愛媛県社会教育研究会大会は例年と異なり、本協議会と一般社団法人全国社会教育委員連合との共催という形で開催された。これは社教連が東京以外の地方で初めて開催する「社会教育委員活動活性化セミナー」となった。本大会の基調講演「ソーシャルキャピタルを豊かにし、新しい公共を担う社会教育の役割」では、講師の菊池龍三郎社教連理事から今後の社会教育のあり方や社会教育委員の任務について示唆に富む提言が行われた。特に社会教育委員がソーシャルキャピタル作りの担い手を育成・確保するため「住民の居場所づくり」や「出番づくり」を積極的に推進し、行政との協働による新しい公共の担い手なること——これが社会教育委員の行動指

針であることを参加者全員の共通認識とすることができた。午後の三つの分科会では、おやじの会や、全国で唯一、現在も全県組織を維持している「愛護班」、早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進に係る平成24年度文部科学大臣表彰を受賞した、宇和島市家庭教育チーム。以上3団体の取組みについて研究・協議が行われた。



本大会を通じて参加者は「個人の自立に向けた住民の学習ニーズを把握し、それを地域づくりや絆づくりにつなげる中心的担い手となること」が社会教育委員の活動の原点であることを再確認し、主体的に社会教育委員としての活動活性化を図る決意を抱く大会となった。

見識と実行力のある

社会教育委員に

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会

会長 石田 高幸

今年度は、一般社団法人全国社会教育委員連合（社教連）会長大橋謙策氏が、文部科学省中央教育審



議会教育制度分科会の中で「社会教育の重要性と社会教育委員の必置」について、意見の陳述をされたことは、2013年11月25日発行の「ニュースレター」14号にてご承知のことだと思えますが、各都道府県等でも県に強く要請して、より良い社会教育行政・地域の社会教育の活動の実施具現化がスムーズにいくよう社教連の意見に協力努力して行かなくてはならないのではないのでしょうか。

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会では、「社会教育委員に求められる役割—社会教育の転換期のいま—」をテーマに埼玉県全体研修会を開催しました。

また、例年4ブロックに分かれ、社会教育関係委員・職員研修事業をテーマに沿って開催し、地域に応じた実践成果の発表協議等を通じて、情報交換をし、今後の活動の在り方を具体的に、発信できる人材を育成していくよう努力しています。左記にテーマを記載しました。

東部地区

「青少年の健全育成を目指す社会教育の役割」
実践発表・研究協議

① 青少年と地域と私―加須市北川辺子ども育成連絡協議会

② 地域で子どもを見守り育てる―青少年久喜市民会議

③ 町ぐるみ白岡―白岡町社会教育委員会

入間地区

「生涯学習活動の地域資源ネットワーク」

① 寺坂棚田での米づくり体験―横瀬町

② 飯能公民館との支援事業

③ 森のキャンパスアドベンチャーコースの活用―秩父市

④ 名栗地区活性化検討会への参画―飯能市

比企地区

「健全でたくましい子どもの育成に向けて―家庭・地域の教育力の向上と社会教育委員の関わり」―小川町

北部地区

「社会教育委員の役割について」講師 小池茂子先生

演題「高齢者社会と社会教育委員の役割について」

被災地から学ぶ

社会教育の意義

神戸市社会教育委員会 議長 松岡 広路

私は、神戸市社会教育委員であると同時に、岩手県大船渡市赤崎町の地区復興委員でもある。

2011年3月11日、山と海に囲まれた小さなまち・赤崎に、津波が渦を巻きながら襲いかかった。まちを破壊し、いのちや大切なものを奪っていった。残ったのは、津波跡地の真ん中の小山の上にある赤崎地区公民館と保育園だけ。今もその様相は大して変わらない。

しかし、住民は大きな心の痛みをかかえながら、復興にむけて懸命に闘っている。津波で家を流された人も、かろうじて助かった人も、みんな一丸となって、「未来にまちを残そう」との思いで生き抜いている。

跡地に仮設商店街が作られたり、漁業権を売却した元漁師



師たちがカキ養殖を再開したりという動きもある。2012年秋には、公民館を拠点に有志とボランティアで「赤崎復興隊」が結成された。

まちの未来を想い、復興計画づくりを初め、高台移転地の町並みづくり、復興祭の企画運営、子ども復興隊の立ち上げ、復興市の開催、地区運動会の再開支援など、精力的にまちの再興・創成に向けて動いている。大したものだ。何もかも失ったこの地で、どうしてここまでやれるのか？

たしかにボランティアや他地域からの応援もある。しかし、本質的には、その答えは、公民館を中心とする地域コミュニティの豊かさにある、といえるであろう。

赤崎では、地区公民館と字単位の複数の地域公民館（自治公民館）が、地域から選出された地区公民館館長の絶大な権限のもとで、互いに緊密につながり、まち全体の活動をつかさどっている。館長はいわば町長であり、公民館運営委員会はさながら町議会、といったところであろうか。それゆえ、学校も地域団体も公民館を尊重し、何かと公民館を頼りにする。公民館を中心とした人的ネットワーク

（ソーシャル・キャピタル）が、赤崎は、実に豊かなのである。

津波は、地域政治と連動した公民館システムまでは奪わなかった。公民館を自治の中心に据えてきた赤崎の歴史が、「人々が集い、語り合い、共に動き、学ぶ」という社会教育を育んできた。だからこそ、今日の復興の力が生まれているのである。赤崎は、これからも、自治・民主主義・公正の意味をかみしめながら、持続可能なまちへと復興を遂げていくことである。私が復興に関わって三年が経とうとしている。被災地が新しいまちとして甦ることを切に願うものである。

しかし一方、神戸のまちにこうした拠点はあるか、と自問せざるを得ない。阪神淡路大震災以後、神戸のソーシャル・キャピタルは、果たして復興したといえるのだろうか。神戸市社会教育委員として、被災地に学びながら、改めて、被災地に学びながら、改めてまちの豊かさとは何かを考え直さなくてはならない、そして、それを育む社会教育・生涯学習の基盤をしつかりと創らなくてはならない、と思うのである。

「社教連」だより

平成25年度

第3回理事会・総会について

平成25年度第3回理事会・総会を2月28日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成26年度事業計画(案)・収支予算(案)②第56回全国大会(徳島大会)③第57回全国大会(大分大会)④第58回全国大会の開催地について⑤その他を予定しております。

平成26年度

第1回理事会・総会について

平成26年度第1回理事会・総会を、5月27日(火)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成25年度事業報告・決算報告②第56回全国大会(徳島大会)③第57回全国大会(大分大会)④第58回全国大会⑤その他を予定しております。

ご多用とは存じますが、ご予定くださいますようお願いいたします。

法人設立50周年記念セールについて
最終セールの2月28日まで開催しております。

詳細はホームページをご覧ください。

社会教育手帳



会議の備忘録等に最適です
新書版 定価1,260円(税込)
＜2月末まで特別価格800円(税込)＞

主な内容

1. 備忘録と生活情報
2. 社会教育資料
3. 全国社会教育委員連合の概要

ご注文は(一社)全国社会教育委員連合へ直接、またはホームページからでもできます。

平成26年度社会教育研究大会一覧(予定)

全国大会	(徳島大会)	10月22日(木)～23日(金)	徳島県徳島市
北海道地区	(宗谷大会)	10月16日(木)～17日(金)	北海道稚内市
東北地区	(秋田大会)	11月13日(木)～14日(金)	秋田県秋田市
関東甲信越地区	(神奈川大会)	11月20日(木)～21日(金)	神奈川県鎌倉市
東海北陸地区	(石川大会)	10月16日(木)～17日(金)	石川県七尾市
近畿地区	(大阪大会)	9月12日(金)	大阪府吹田市
中国四国地区	→ 全国大会と同時開催		
九州地区	(鹿児島大会)	11月13日(木)～14日(金)	鹿児島県鹿児島市

社教情報 No.70



社会教育の明日を拓く 社教情報 No.70

特集・「社会教育と成人力 ～人と地域の豊かさを培う」

＜巻頭言＞日本人に必要な「成人力」とは何か

＜特筆＞執筆者

清岡 祐二	星 美保
松田 恵示、潮崎 洋一、関 福生	上條 秀元
高橋 寛氏(寄手紙)	梶野 光信
答申・提言＞知の拠点としての図書館の果たすべき役割	濱中 昌志
社研コーナー＞社会教育と成人力～ボランティア活動が培う力～	岩崎久美子
＜海外見聞＞フランスの「緩可書と図書館」	立田 慶裕
＜調査研究報告＞OECD「成人力」調査の概要(その3)	山崎 清男
＜解説＞国立大学法人	

- ＜答申・提言＞知の拠点としての図書館の果たすべき役割
- ＜社研コーナー＞社会教育と成人力～ボランティア活動が培う力～
- ＜海外見聞＞フランスの「緩可書と図書館」
- ＜調査研究報告＞OECD「成人力」調査の概要(その3)
- ＜解説＞国立大学法人

編集・発行 (一社)全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541

文部科学省認定 生涯学習支援実践講座 生涯学習コーディネーターを養成

「生涯学習コーディネーター資格」が取得できます。

いま、生涯学習領域で最も必要とされている生涯学習コーディネーター。生涯学習コーディネーター養成のための本格的研修講座です。コーディネートの知識・技術が4か月間の通信教育で習得できます。



一般財団法人 社会通信教育協会

「生涯学習コーディネーター研修」事務局 〒114-0015 東京都北区中里1-15-8

TEL.03-5815-8432 FAX.03-5815-8433 e-mail sakai@tsushinkyoiiku.or.jp

講座内容

- 第1単元(テキストI) コーディネートの理解と技術
- 第2単元(テキストII) 地域学習情報の活用と技術
- 第3単元(テキストIII) コミュニケーションの仕方の理解
- 第4単元(テキストIV) 事業の設計とマネジメントにおけるコーディネーター